



【上下水道事業 × D X】

当社の取組みと推進のポイント

メタウォーター株式会社

2020/3/24



2011年よりウォータービジネスクラウド / WBC
を立ち上げ上下水道事業のDXを支援



次年度より
水道標準PFへも参画予定

第一段階) 紙ベース管理からの脱却、データ化の推進

2013年頃からPPP事業現場等に「Smart Field Note®」を展開

効果：作業時間短縮・ミス防止等の業務品質向上



第二段階) 収集データからの付加価値の創造

SFNデータ、設備台帳を統合する「設備機器管理サービス」を提供、利用

効果：可視化、アセットマネジメントに関する意思決定の支援

主な機能	機能仕様
設備機器台帳	設備機器ごとの詳細項目情報の管理機能、各種関連機能との情報連携
工事台帳・部品台帳	工事实績情報や予定工事情報の管理、作業記録と連携した部品管理
作業管理	作業計画の作成や、作業実績情報の管理、作業報告書作成
設備診断	設備診断調査項目や調査結果の管理
更新計画管理	更新予算の計画と中長期計画管理
LCC管理	設備機器単位での実績LCCの管理、将来LCCの推計
他システム連携	SFNなど他WBCサービスとのデータ連携



DX推進へ 民間目線のポイント ~ 特に契約環境から

性能発注化 効率化をする者へのインセンティブを

- ・仕様発注のルールではデータ活用して効率化をしても民間の利益にはならない
- ・民間受託者にはデータを入力し、分析し、活用する自らの動機が無い状態
性能発注とすることでデータ活用による効率化インセンティブが生じる
また、得られたデータにKPIを設定することで事業透明性確保にも有益

業務包括化 DXリスクがコントロールできる業務範囲へ

- ・例えばDX期待値が大きい自動化（省人化）はあまり進んでいない認識
- ・自動化支援に留まるのは、自動化した監視制御システムの納入者が
自動化により生じるO&Mリスクをコントロールできないことも一因
PFI/PPP事業のように包括化することでDXへのチャレンジは増加する

データ活用のルール作り オープンデータが事業持続性を支える

- ・データ蓄積は目的ではない、「使える」DB / プラットフォームが望まれている
- ・データ所有権と利用に関するあるべきルールを示して欲しい
一定のルールの下で関係者がオープンにデータを活用し、多くの民間を
巻き込んで効率化の知恵を、生み出すことが上下水道事業の持続性を支える

